



まつざき真琴

県議会ニュース

日本共産党

鹿児島県議会ニュース
2013年10月6日号
9月議会特集(その3)

発行/日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
★TEL/FAX 286-3977 E-mail kengidan@jcp-kagoshima.com HP <http://jcp-kagoshima.com>
★ブログ まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記 <http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

全国初
県立全寮制中高一貫男子校

まつざき真琴県議の9月議会での一般質問の中の、「県立中高一貫男子校」の問題について、お知らせします。ご意見、ご要望をお聞かせください。

地元の子どもたちが通えない学校になってしまう

肝付町の高山高校跡に、全国初の県立中高一貫男子校を2015年4月開校で、創設する準備が行われています。9月議会に、その新設校「楠隼(なんしゅん)」中学校・高等学校の具体的な教育方針、校訓、教育内容等が明らかにされましたが、驚くような内容でした。

まつざき県議は、その問題点を指摘し、教育長に答弁を求めました。

●なぜ県立で男子校をつくるのか

鹿児島県は、男女共同参画推進条例を定め、「すべての人々が、その人権を尊重され、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」を目指して、特に教育現場における取組を推進する方針を掲げています。それなのに義務教育の年齢から男子だけの学校を県立で創設することは、理解できません。

●教育方針の1番目「難関大学への道を拓く」

他の県立高校にはない「30人学級」とし、全寮制の寄宿舎は、個室で空調も完備し、夜間の学習のための学習指導員や洗濯専用のランドリースタッフを配置するとしています。

至れり尽くせりで「難関大学」をめざす中高一貫校つくるということは、明らかに受験競争の低年齢化を招き、学校間格差を助長することになります。

●48億円で学校整備 全国から募集 地元枠は無し
地元枠も設けず、全国から生徒を募集する計画ですが、県民の税金は県民のために使うべきではないでしょうか。

●地元が願った学校は

「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」での肝付地域の要望は、生徒の確保のために県内外の生徒を集めた併設型中高一貫。スクールバスや寮、学生食堂の設置、地域の特性を生かした美術工芸コースや体育コース等の学科の導入でした。

しかし、実際につくられようとしているのは、全寮制の男子校で、地元の子どもたちは行けない学校です。開校予定まで1年半。地元の意向を生かした、地元の子どもたちも通える学校にすべきではないでしょうか。



県庁作成のパンフレットより、学校全景(完成イメージ)

教育長に公開質問状を提出

9月24日に、保護者や教員経験者でつくる「県立全寮制男子校・中高一貫校を考える会」のみなさんは、県教育長あてに「公開質問状」を提出しました。

1. 男子校にする理由は?
2. 30人学級、寄宿舎の個室、空調完備、学習指導員などは、他の県立学校にも広げる計画か?
3. 48億円をかけた学校整備。税金は県民のために使うべきでは?

4. 地元の子どもたちが行けない学校になる。地元の子どもたちの進路保障はどう考えるのか? など全7項目

